

北海道大学 大学院文学研究院 概要
文学院・文学部

Faculty of Humanities and Human Sciences,
Graduate School of Humanities and Human Sciences
and
School of Humanities and Human Sciences
2 0 2 6



北海道大学大学院文学研究院・文学院・文学部
〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 7 丁目
電話（直通） 011-726-7728／FAX 011-706-4803
E メール wwwadmin@let.hokudai.ac.jp
ホームページ <https://www.let.hokudai.ac.jp/>

目 次

1	沿	革	2～5		
2	歴代学部長・研究院（科）長		6～7		
3	組	織	運	営	8
4	研究室の主な研究分野		9～11		
5	職	員	数	12	
	1	職員数			
	2	職員配置			
6	学	生	数	13～15	
	1	学部学生			
	2	大学院学生			
	3	研究生・聴講生・科目等履修生・特別研究学生・特別聴講学生			
	4	外国人留学生			
7	図	書	16		
	1	蔵書冊数及び雑誌種類			
	2	年間受入数			
8	土地及び建物面積		16		

1. 沿革

- 昭和 22 年 4 月 法文学部が設置され、哲学科 7 講座（哲学概論・哲学史、西洋哲学史(1)、西洋哲学史(2)、倫理学・倫理学史、心理学・教育学(1)、社会学・宗教学、社会学・宗教学)、史学科 2 講座（国史学、東洋史学）、文学科 3 講座（文学及西洋文学(1)、国文学(1)、東洋文学）、法律学科 5 講座（憲法学、行政法学、民法学(1)、民法学(2)、社会法学）、政治学科 1 講座（政治学・政治史）、経済学科 2 講座（社会政策、経済学）の計 20 講座が置かれた。
- 昭和 22 年 10 月 北海道帝国大学は北海道大学と改称された。
- 昭和 23 年 9 月 法文学部の哲学科に 1 講座（東洋哲学史(1)）、史学科に 2 講座（国史学(2)、西洋史学）、法律学科に 5 講座、経済学科に 2 講座が増設された。
- 昭和 24 年 6 月 法文学部の哲学科に 2 講座（東洋哲学史(2)、心理学・教育学(2)）、史学科に 1 講座（史学）、文学科に 2 講座（西洋文学(2)、西洋文学(3)）、法律学科に 2 講座、経済学科に 1 講座が増設された。
- 昭和 25 年 4 月 法文学部が文学部と法経学部に分離される。文学部には、哲学科 10 講座（西哲第一、中哲、印哲、西哲第二、西哲第三、倫理、心理第一、心理第二、社会、宗教）、史学科に 5 講座（史学概論、日本史第一、日本史第二、東洋史、西洋史）、文学科に 5 講座（英米、国文、中文、独文、露文）の計 20 講座が置かれた。
- 昭和 28 年 4 月 文学研究科が設置された。
- 昭和 28 年 5 月 文学研究科に哲学専攻（博士課程・修士課程）、東洋哲学専攻（博士課程・修士課程）、心理学専攻（博士課程・修士課程）、社会学専攻（修士課程）、史学専攻（博士課程・修士課程）、英米文学専攻（博士課程・修士課程）及び国文学専攻（博士課程・修士課程）の合計 7 専攻が置かれた。
- 昭和 30 年 8 月 文学研究科に社会学専攻（博士課程）、国史学専攻（博士課程・修士課程）、東洋史学専攻（博士課程・修士課程）及び西洋史学専攻（博士課程・修士課程）が置かれた。
- 昭和 30 年 8 月 文学研究科に置かれていた史学専攻（博士課程・修士課程）が廃止された。
- 昭和 32 年 3 月 文学科に言語学講座が増設された。
- 昭和 37 年 3 月 史学科に史学 1 講座が増設された。
- 昭和 39 年 7 月 ユーラシア文化研究室が設置された。

昭和 40 年 4 月	文学科に国語学講座が設置された。
昭和 40 年 6 月	大学院文学研究科に独文学専攻（修士課程）及び中国文学専攻（修士課程）が設置された。
昭和 41 年 4 月	附属北方文化研究施設が設置され、考古学部門が置かれた。ユーラシア文化研究室及び北海道大学北方文化研究室（昭和 12 年 10 月設置）が廃止された。
昭和 41 年 9 月	附属北方文化研究施設二風谷分室として、イギリスから旧マンロー邸（土地 19、371 m ² 、建物 304 m ² ）の寄贈を受けた。
昭和 42 年 1 月	大学院文学研究科に独文学専攻（博士課程）及び中国文学専攻（博士課程）が設置された。
昭和 42 年 4 月	文学科イギリス文学講座を英米文学講座に、ドイツ文学講座を独文学講座に、ロシア文学講座をロシア文学講座にそれぞれ名称変更された。
昭和 42 年 11 月	教室・研究棟 4,694 m ² の新築工事が落成した。
昭和 43 年 6 月	文学科に英語学講座が増設された。
昭和 44 年 3 月	大学院文学研究科に言語学専攻（修士課程）が設置された。
昭和 44 年 3 月	研究棟 350 m ² の増築工事及び管理棟 616 m ² の新築工事が落成した。
昭和 44 年 5 月	文学科に独語学講座が増設された。
昭和 46 年 6 月	大学院文学研究科に言語学専攻（博士課程）が設置された。
昭和 48 年 3 月	実験動物舎 83 m ² の新築工事が落成した。
昭和 48 年 4 月	附属北方文化研究施設に文化人類学部門が増設された。
昭和 49 年 12 月	附属北方文化研究施設分室建築用地として、斜里町郷土研究会から土地 661 m ² が寄贈された。
昭和 51 年 3 月	附属北方文化研究施設斜里分室 126 m ² の新築工事が落成した。
昭和 52 年 3 月	実験動物舎 67 m ² の増築工事が落成した。

昭和 52 年 4 月	哲学科の実験心理学第 1 講座、実験心理学第 2 講座及び社会学講座が廃止されて行動科学科が設置され、認知情報学講座、比較行動学講座及び社会行動学講座が新設された。
昭和 53 年 4 月	行動科学科に動態社会学講座及び数理行動学講座が増設された。
昭和 53 年 11 月	研究棟（E 棟）1,321 m ² 及び研究棟 351 m ² の増築工事が落成した。
昭和 54 年 3 月	行動科学科に社会生態学講座が増設された。
昭和 55 年 4 月	行動科学科に社会心理学講座が増設された。
昭和 56 年 4 月	共通講座として基礎文化論講座が設置された。
昭和 57 年 4 月	大学院文学研究科心理学専攻及び社会学専攻を改組し、行動科学専攻（修士課程）が設置された。
昭和 59 年 4 月	大学院文学研究科に行動科学専攻（博士課程）が設置された。
昭和 61 年 4 月	共通講座として総合文化論講座が設置された。
昭和 63 年 4 月	共通講座として人間行動学講座が設置された。
昭和 63 年 11 月	研究棟 783 m ² の増築工事が落成した。 実験動物舎の移転に伴い、渡り廊下 12 m ² の減及び渡り廊下 36 m ² の増となった。
平成 4 年 4 月	文学科にロシア語文化論講座が新設された。
平成 5 年 4 月	文学科に中国語文化論講座が新設された。
平成 6 年 2 月	研究棟図書資料室 118 m ² の増築工事が落成した。
平成 7 年 4 月	従来の哲学科、史学科、文学科及び行動学科の 4 学科を改組し、人文科学科の 1 学科に統合するとともに、既存の全講座と附属北方文化研究施設を哲学、倫理学、文化価値論、日本史学、東洋史学、西洋史学、歴史文化論、北方文化論、言語情報学、日本文化論、中国文化論、西洋言語学、西洋文学、心理システム科学、行動システム科学、社会システム科学及び地域システム科学の 17 大講座に改編された。
平成 7 年 4 月	本学の一般教育を含む学部教育を充実させるため、「学部一貫教育」体制へ移行された。これに伴い、入学者選抜方法も、従来の「系・課程」別の募集形態から「学部」別に変更された。

- 平成 12 年 4 月 大学院重点化が認められ、大学院文学研究科は、思想文化学専攻（哲学講座、倫理学講座、文化価値論講座）、歴史地域文化学専攻（日本史学講座、東洋史学講座、西洋史学講座、歴史文化論講座、日本文化論講座、中国文化論講座、北方文化論講座、スラブ社会文化論講座（協力講座））、言語文学専攻（西洋言語学講座、西洋文学講座、言語情報学講座）及び人間システム科学専攻（心理システム科学講座、行動システム科学講座、社会システム科学講座、地域システム科学講座）の 4 専攻 17 講座 1 協力講座による大学院講座制に移行した。
- 平成 15 年 1 月 人文・社会科学総合教育研究棟の新築工事が落成した(工事引渡日)。
- 平成 16 年 4 月 大学院文学研究科「思想文化学専攻」の「文化価値論講座」の名称を「宗教学インド哲学講座」に変更し、「芸術学講座」が新設された。
- 平成 17 年 4 月 大学院文学研究科「歴史地域文化学専攻」の「日本文化論講座」「中国文化論講座」が「言語文学専攻」へ移行し、「言語文学専攻」に「映像・表現文化論講座」が新設された。
- 平成 19 年 2 月 大学院文学研究科に「応用倫理研究教育センター」が設置された。
- 平成 19 年 4 月 大学院文学研究科に「北方研究教育センター」が設置された。
- 平成 20 年 3 月 研究棟の耐震補強及び改修工事が落成した。
- 平成 27 年 1 月 研究棟（E 棟）の耐震補強及び改修工事が落成した。
- 平成 30 年 4 月 応用倫理研究教育センターが応用倫理・応用哲学研究教育センターに名称変更された。
- 平成 31 年 4 月 大学院文学研究科を改組し、「大学院文学研究院」及び「文学院」が設置された。
従来の大学院 4 専攻 20 講座が、文学院は、人文学専攻（哲学宗教学講座、歴史学講座、文化多様性論講座、表現文化論講座、言語科学講座、スラブ・ユーラシア学講座、アイヌ・先住民学講座）、人間科学専攻（心理学講座、行動科学講座、社会学講座、地域科学講座）の 2 専攻 11 講座 20 研究室に再編され、文学研究院は、人文学部門（哲学宗教学分野、歴史学分野、文化多様性論分野、表現文化論分野、言語科学分野）、人間科学部門（心理学分野、行動科学分野、社会学分野、地域科学分野）の 2 部門 9 分野 18 研究室に再編された。
併せて文学部人文科学科の履修コースが 9 コースから 4 コースに再編された。

2. 歴代学部長・研究院（科）長

法文学部長

昭和 22. 6. 9～25. 3.31 伊 藤 吉之助

文学部長

昭和 25. 4. 1～26. 7.30 伊 藤 吉之助
 26. 7.31～29. 7.31 武 田 信 一
 29. 8.91～32. 1.31 柏 倉 俊 三
 32. 2.91～33. 5.31 武 田 信 一
 33. 6.91～35. 5.31 中 川 秀 恭
 35. 6. 1～38. 5.21 須 田 豊太郎
 38. 5.22～38.12.19 杉野目 晴 貞（事務取扱）
 38.12.20～39.12.18 金 子 武 蔵
 39.12.19～42.12.18 阿 部 武 彦
 42.12.19～44.12.18 野 田 壽 雄
 44.12.19～46. 7.31 小 栗 浩（事務取扱）
 46. 8. 1～48. 3.31 鳥 山 成 人（事務取扱）
 48. 4. 1～49. 3.31 梅 岡 義 貴（事務取扱）
 49. 4. 1～50. 3.31 梅 岡 義 貴
 50. 4. 1～53. 3.31 塩 谷 饒
 53. 4. 1～55. 3.31 永 井 秀 夫
 55. 4. 1～57. 3.31 花 田 圭 介
 57. 4. 1～59. 3.31 藤 田 宏 達
 59. 4. 1～61. 3.31 宇都宮 芳 明
 61. 4. 1～63. 3.31 田 中 彰
 63. 4. 1～平2.3.31 高 畠 稔
 平成 2. 4. 1～4. 3.31 大 島 正 二
 4. 4. 1～6. 3.31 青 柳 謙 二
 6. 4. 1～8. 3.31 今 西 順 吉
 8. 4. 1～10. 3.31 灰 谷 慶 三
 10. 4. 1～12. 3.31 北 原 敦

文学研究科長

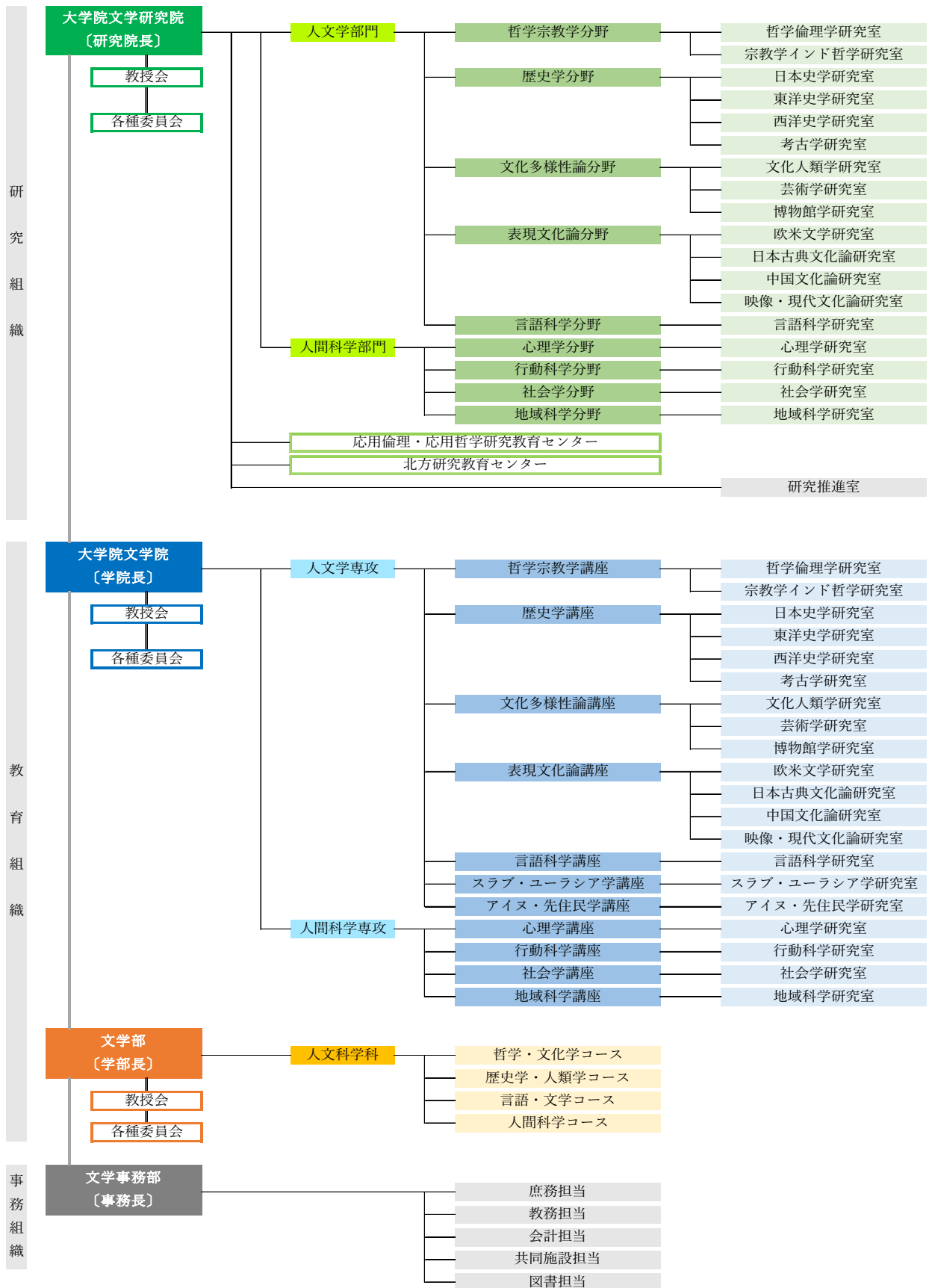
平成 12. 4. 1～14. 3.31 瀧 川 哲 夫
 14. 4. 1～16. 3.31 身 崎 壽
 16. 4. 1～18. 3.31 新 田 孝 彦
 18. 4. 1～20. 3.31 栗生澤 猛 夫
 20. 4. 1～22. 3.31 望 月 恒 子
 22. 4. 1～26. 3.31 弐 和 順

26.4.1～28.3.31	白木 沢 旭 児
28.4.1～31.3.31	山 本 文 彦

文学研究院長

平成	31.4.1～令2.3.31	山 本 文 彦
令和	2.4.1～6.3.31	藤 田 健
令和	6.4.1～8.3.31	川 端 康 弘
令和	8.4.1～	谷 本 晃 久

3. 組織運営



4. 研究室の主な研究分野

研究室名	研究分野
哲学倫理学研究室	○論理学、論理の哲学 ○分析哲学（言語哲学、心の哲学、行為の哲学、認識論など） ○西洋近代倫理学 ○規範倫理学、メタ倫理学 ○応用倫理学（科学技術倫理、生命倫理、環境倫理、AI倫理など） ○近現代ドイツ哲学 ○近現代フランス哲学 ○イギリス経験論 ○現象学 ○近代日本哲学 ○社会思想史 ○意識の哲学 ○実存哲学
宗教学インド哲学研究室	○宗教学、宗教史学、宗教民俗学、宗教人類学、死生学、ドイツ宗教思想史 ○仏教学、仏教史学 ○インド哲学、インド哲学史
日本史学研究室	○日本古代史 ○日本中世史 ○日本近世史 ○日本近代史 ○日本現代史 ○日本近現代思想史、植民地朝鮮文化史
東洋史学研究室	○中国前近代史 ○中国近現代史 ○東アジア史 ○西アジア史 ○中東イスラーム史
西洋史学研究室	○古代ローマ史 ○ドイツ中世・近世史 ○イギリス近現代史 ○近代フランス史 ○アメリカ史
考古学研究室	○考古学 ○物質文化論 ○民俗誌考古学 ○植物考古学 ○動物考古学 ○文化財科学 ○年代測定 ○同位体分析
文化人類学研究室	○文化人類学 ○自然－人間関係 ○生命論 ○平和研究 ○脱植民地化 ○エスノグラフィー論 ○動物論 ○北米の自然誌 ○生態人類学 ○身体表現・パフォーマンス ○身体論 ○ジェンダー・セクシュアリティ ○植物人類学 ○サーミ研究 ○北欧研究 ○フォークロア ○美術・工芸
芸術学研究室	○美学・芸術学（含む芸術諸学） ○西洋美術史 ○現代美術史 ○美的文化論
博物館学研究室	○博物館学（地域連携、市民協働、社会的価値、社会的役割、平和博物館、日本近現代史に関わる博物館、動物園・水族館など） ○動物に関する歴史・文化（動物と人の関係史、文化史、博物誌、野生動物の生態や分布、動物標本など）
欧米文学研究室	○西洋古典文献学 ○古代キリスト教の歴史と文学 ○フランス文学・思想 ○アメリカ文学 ○イギリス文学、シェイクスピア劇、物語理論 ○ロシア文学、ポーランド文学、比較文学
日本古典文化論研究室	○上代文学 ○中古文学 ○中世文学 ○近世文学 ○日本文学史
中国文化論研究室	○中国思想 ○日本漢学 ○中国芸術 ○中国語学 ○中国文学 ○中国文化史
映像・現代文化論研究室	○映像論、表象文化論、映画学、日本映画論、外国映画論 ○日本文学（近代・現代）、日本文化（近代・現代）、日本思想（近代・現代）
言語科学研究室	○言語学 ○国語学、文献学、歴史言語学 ○日本語文法、語用論、社会言語学、方言学 ○日本語学、コーパス言語学 ○アイヌ語、北方言語 ○韓

	国朝鮮語学、音韻論、アクセント論 ○英語学、認知言語学 ○フランス語学、ロマンス語学、生成文法 ○ロシア語学、スラブ語学 ○日本語教育
スラブ・ユーラシア学研究室	○ロシア帝国史、ソ連史、シベリア極東史 ○ロシア文学・文化 ○ロシア・旧ソ連諸国政治 ○ロシア・旧ソ連諸国経済 ○日ロ関係、ユーラシア国際関係 ○中央アジア・コーカサス近現代史 ○旧ソ連諸民族・諸宗教研究 ○東欧政治経済・国際関係 ○スラブ語学、バルカン言語学、社会言語学、言語学史 ○中央ユーラシア前近代史、モンゴル帝国史
アイヌ・先住民学研究室	○先住民考古学、文化遺産論、研究倫理、先住民返還論 ○アイヌ宗教文化、アイヌ語、口承文芸、ジェンダー、マジョリティ研究 ○アイヌ物質文化、文化人類学、博物館学 ○先住民法学、憲法学 ○口承文芸論、アイヌ語、ニヴフ語、先住民族諸言語 ○先住民考古学、アラスカ考古学、ベーリンギア研究 ○アイヌ史、北東アジア民族史、日本古代史
心理学研究室	<専門領域> ○認知心理学、基礎心理学、実験心理学、認知科学、認知神経科学 <各テーマ例> ○感覚、知覚、イメージ、記憶、学習、注意、運動、身体表現、言語、思考、意思決定、音楽、発達、感情、コミュニケーションなどの諸心理過程や産業応用
行動科学研究室	<専門領域> ○社会心理学、進化心理学、文化心理学、環境心理学、計量行動学、神経行動経済学、比較認知科学 <各テーマ例> ○マイクロ・マクロ理論、社会的交換、集団力学、意思決定、環境行動、社会的ジレンマ、比較文化、公正、ゲーム理論、感情、異種間コミュニケーション、協力行動、リスク・ガバナンス、量子認知AI
社会学研究室	○宗教・文化社会学、東アジア宗教文化論、タイ地域研究 ○教育社会学、社会調査法 ○計量社会学、ソーシャル・キャピタル論 ○家族社会学 ○都市社会学 ○リスク社会学、ウェルビーイング ○福祉社会学 ○医療社会学 ○社会運動論 ○社会意識論 ○ナショナリズム研究 ○価値観研究 ○行動遺伝学 ○きょうだい研究 ○ジェンダー論 ○フェミニズム
地域科学研究室	○地域社会学、環境社会学、開発社会学 ○人文地理学、都市地理学、農村地理学、経済地理学、移民研究、観光学、地域づくり論、社会地理学、文化地理学 ○地理情報科学、GIS研究

	○保全生態学、野生動物管理学、外来種管理研究 ○ヒトと動物の関係論、 環境教育 ○北米・東南アジア地域研究
--	--

5. 職 員 数

1 職員数

(令和8年5月1日現在)

教授	准教授	講師	助教	事務職員	URA	合計
51(4)	28	4	7(1)	18	2	110(5)

※正規職員及び特任教員のみ計上。()内は特任教員・内数

2 職員配置

区 分	教 授	准教授	講 師	助 教	事務職員	URA	合 計
哲学倫理学研究室	4	1		1			6
宗教学インド哲学研究室	2	1	1				4
日本史学研究室	4	1					5
東洋史学研究室	2	1	1				4
西洋史学研究室	4(1)	2					6(1)
考古学研究室	1	2					3
文化人類学研究室	2	1		1			4
芸術学研究室	3						3
博物館学研究室		2	1				3
欧米文学研究室	4			1(1)			5(1)
日本古典文化論研究室		4					4
中国文化論研究室	2	2					4
映像・現代文化論研究室	3	1					4
言語科学研究室	6(1)	2					8(1)
心理学研究室	3	2		1			6
行動科学研究室	5	1		1			7
社会学研究室	3(2)	1	1	1			6(2)
地域科学研究室	2	3		1			6
応用倫理・応用哲学研究教育センター							
北方研究教育センター							
教養深化プログラム							
国際担当	1	1					2
研究推進室					1	2	3
事務部					17		17
合 計	51(4)	28	4	7(1)	18	2	110(5)

※文学研究院所属の正規教員及び特任教員、文学事務部の正規職員のみ計上。()内は特任教員・内数

6. 学 生 数

1 学部学生

(令和8年5月1日現在)

学科名	入学 定員	所属	現員				合計
			1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
人文科学科	－	哲学・文化学コース		46(16)	30(12)	43(14)	119(42)
		歴史学・人類学コース		37(9)	46(17)	45(13)	128(39)
		言語・文学コース		47(18)	51(21)	59(29)	157(68)
		人間システム科学コース 人間科学コース（注1）		61(21)	77(35)	83(32)	221(88)
合計	－			191(64)	204(85)	230(88)	625(237)

※入学定員は当該年度の1年次入学定員

※（ ）内は女性学生の内数

（注1）人間システム科学コースは、2019年度から人間科学コースに改組

2 大学院学生

文学研究科 ※～2018 年度入学生

(令和 8 年 5 月 1 日現在)

専攻名	修士課程				博士後期課程					備考
	入学 定員	現員			入学 定員	現員				
		1 年次	2 年次	合計		1 年次	2 年次	3 年次	合計	
思想文化学	－				－					
歴史地域文化学	－				－					
言語文学	－				－			2(2)	2(2)	
人間システム科学	－				－			2(1)	2(1)	
合計	－				－			4(3)	4(3)	

※入学定員は当該年度の 1 年次入学定員

※ () 内は女性学生の内数

文学院 ※2019 年度入学生～

(令和 8 年 5 月 1 日現在)

専攻名	修士課程				博士後期課程					備考
	入学 定員	現員			入学 定員	現員				
		1 年次	2 年次	合計		1 年次	2 年次	3 年次	合計	
人文学	71	94(47)	91(40)	185(87)	28	41(18)	33(16)	80(45)	154(79)	
人間科学	19	13(7)	26(11)	39(18)	7	4(1)	3(3)	15(6)	222(10)	
合計	90	107(54)	117(51)	224(105)	35	45(19)	36(19)	95(51)	176(89)	

※入学定員は当該年度の 1 年次入学定員

※ () 内は女性学生の内数

3 研究生・聴講生・科目等履修生・特別研究学生・特別聴講学生

(令和 8 年 5 月 1 日現在)

区 分	文学部	文学院	文学研究院	合 計
研 究 生	23(13)		9(4)	32(17)
聴 講 生	4(2)	2(1)		6(3)
科目等履修生	5(1)	3(2)		8(3)
特別研究学生		5(3)		5(3)
特別聴講学生	28(18)			28(18)
合 計	60(34)	10(6)	9(4)	79(44)

※ () 内は女性学生の内数

4 外国人留学生

(令和8年5月1日現在)

国名	学部 学生	大学院生		研究生	特別研究 学生	特別聴講 学生	合計
		修士課程	博士後期 課程				
中国		49(29)	48(25)	20(11)	3(2)	3(2)	123(69)
韓国		1(1)	1(1)			19(12)	21(14)
台湾		2(2)				2(1)	4(3)
香港						2(2)	2(2)
アメリカ					1		1
イギリス				1			1
イスラエル	1						1
インドネシア			1(1)				1(1)
カザフスタン	1(1)						1(1)
コロンビア			1(1)				1(1)
シリア			1(1)				1(1)
スウェーデン	1						1
タイ			1(1)			1(1)	2(2)
チェコ			1(1)				1(1)
ハンガリー			1(1)				1(1)
バングラデシュ			1(1)				1(1)
ブラジル	1(1)	1(1)					2(2)
ベルギー						1	1
メキシコ	1(1)						1(1)
モンゴル				1			1
ロシア	1(1)		4(3)		1(1)		6(5)
合計	6(4)	53(33)	60(36)	22(11)	5(3)	28(18)	174(105)

※ () 内は女性学生の内数

7. 図 書

1 蔵書冊数及び雑誌種類

(令和8年3月31日現在)

蔵書(冊)			雑誌(種類)		
和書	洋書	計	和雑誌	洋雑誌	計
107,177	45,023	152,200	2,010	649	2,659

2 年間受入数

(令和7年度)

蔵書(冊)			雑誌(種類)		
和書	洋書	計	和雑誌	洋雑誌	計
4,440	1,036	5,476	593	108	701

8. 土地及び建物面積

(令和8年4月1日現在)

区分	土地	建物(※)	備考
文学研究院	7,933 m ²	11,866 m ²	
二風谷研究室	15,087 m ²	270 m ²	
斜里研究室	661 m ²	126 m ²	
合計	23,681 m ²	12,295 m ²	

※延べ面積